

条沖の島に残る軍の施設です。このように至るところに誰からも知られずという形であります。



海軍呉警備隊安居島聴測照射所指揮所（松山市）

それから、今回の発見といいますか最近では随分知られてくるようになりましたが、防空壕関係で八幡浜第一防空壕があり、全国的に見ても立派なものが残っております。ここでも、地元幸町の方がボランティアで見学対応をやりました。あとは松山空港そばの掩体壕。これは掩体と呼ばれますが紫電改を格納していました。掩体壕は県外では文化財になっています。例えば、大分県の宇佐航空隊のところでは市の文化財、高知県南国市にある掩体も南国市の文化財。松山は、なっておらず、今後、文化財にしていくことが必要です。



八幡浜第一防空壕（八幡浜市）



掩体壕（松山市）



陸軍松山兵営哨舎（松山市）

これはあまり知られていませんが護国神社にある第24連隊の歩哨兵が立っていたボックスですね。こういう珍しいものがあります。それから内之浦公会堂という八幡浜市保内町の登録有形文化財の天井には機銃掃射の跡が生々

しく残っています。

それから先ほど伊東先生の紹介にあった長浜大橋、開閉橋で有名ですが、実は生々しい銃撃跡があり、とんでもない時代を経てきたつわものでもあるわけです。それから思想的に戦時中は、我々は常に戒めとして見ておきたいわけですが、皇国史観の中で奉安殿というものが建てられました。これはGHQの取り締まりにより全国からなくなったはずでありましたが、愛媛においてはなぜか西条市に5基、内子町に1基奉安殿が今なお残っている。歴史上なくなっているはずのものが残っているという意味において戦時中を物語るものがあつたりいたしました。



内之浦公会堂（八幡浜市）



長浜大橋（大洲市）

戦時系遺産というものは、私たちが何を忘れてはいけないのか、そして将来何をものさしにやっていたかしなければいけないのかということを示唆的に教えてくれるものたちではないかという思いがいたしました。

それでは、分野ごとで伊東先生は土木遺産、交通、総括を含めて基調講演してくださいました。二村先生は産業遺産の主立ったものを概括的におっしゃってくださいました。そして建築の方で曲田先生がモダニズムの戦後の建物に至るまでのことをおっしゃってくださいました。さて伊東先生、5、6分そういった先生方の話をお聞きくださってお感じになられたことと、何か土木遺産の補足でも構いませんので教えていただければと思います。

○伊東 各先生方のお話を聞いて大きく分けて2つ、ないしは4点ほど気が付いた点があります。どういったことかということ1つは、「文化財の広がり」。もう1つはいわゆる「地域活性化」というかその辺の展開についての2つがあるのかなと思います。

「文化財の広がり」という意味では、曲田先生から公共建築を中心としたお話がありました。近代化遺産は戦前のものが中心なのですが、愛媛には戦後モダニズムを含め、それぞれの時代の種々のよいものがあると。今後は戦後のものも含めて、それらを保存や登録対象にして